

東京YMCA

9
2021年

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

菅谷淳総主事と口原恵美子館長。
採火した火を入れたランタンを囲んで



区民のメッセージを聖火に託す パラリンピック採火式に参加

江東区児童・高齢者総合施設
「グランチャ東雲」

東京パラリンピックの聖火の「採火式」に、東京YMCAが運営する「江東区児童・高齢者総合施設（グランチャ東雲）」が、区内の高齢者施設の代表として参加しました。この「採火式」は、今回の聖火のコンセプト「Share Your Light」あなた、きつと、誰かの光だ。」を形にするために行なわれたもので、8月上旬から国内外約880カ所の自治体が趣向

を凝らし、さまざまな方法で火を集めました。都内では8月20日午前9時、62の区市町村で一斉に採火式が行なわれ、正午には都庁の集火台で一つになった後、全国の炎と融合して聖火となり、24日の開会式に届けられました。

江東区の採火は、パラリンピックへの応援メッセージや共生社会への思いを区民が木製の短冊に記し、それを炎にして届けるという



子どもコーナーでは、ペットボトルキャップを「子ども通貨」としてゲームやお買い物を楽しみました。

毎年の開催している「しのめ祭り」の代わりに何かしたいと考えて企画した今回のイベントですが、多数の企業はじめ保護者会「おひさま会」「東京ベイサイドワイズメンズクラブ」の尽力で有意義なものとなりました。感謝して報告します。（園長 堀江和広）

子どもたちには、多くの人と出会い、「優しい心」を培ってほしいと思います。（会員部運営委員 綿引康司）

を凝らし、さまざまな方法で火を集めました。都内では8月20日午前9時、62の区市町村で一斉に採火式が行なわれ、正午には都庁の集火台で一つになった後、全国の炎と融合して聖火となり、24日の開会式に届けられました。

江東区の採火は、パラリンピックへの応援メッセージや共生社会への思いを区民が木製の短冊に記し、それを炎にして届けるという

子どもたちには、多くの人と出会い、「優しい心」を培ってほしいと思います。（会員部運営委員 綿引康司）

子どもたちには、多くの人と出会い、「優しい心」を培ってほしいと思います。（会員部運営委員 綿引康司）

子どもたちには、多くの人と出会い、「優しい心」を培ってほしいと思います。（会員部運営委員 綿引康司）

子どもたちには、多くの人と出会い、「優しい心」を培ってほしいと思います。（会員部運営委員 綿引康司）

子どもたちには、多くの人と出会い、「優しい心」を培ってほしいと思います。（会員部運営委員 綿引康司）



コロナ禍の夏休み

7月12日に発令された緊急事態宣言と共に迎えた夏休み。東京YMCAは宿泊を伴うサマーキャンプを中止し、水泳教室やデイキャンプ、語学スクールなど日帰りプログラムのみ実施しました。宣言が発令される前までは宿泊キャンプも実施予定で、多くの子どもたちにも予約をいただいていた。学校の合宿や修学旅行もない中で「子どもに伸び伸びとした時間を過ごさせたい」「親子で家にこもっていると煮詰まる」など行き場を求める声も多く、6月の予約時には例年以上のお申し込みがありました。やむなく中止としたものの、少しでもニーズに応えたいと、キャンプソングは

いと、スタッフたちは急き代替プログラムを企画。コロナだけでなく豪雨や熱中症も心配されたため、研修施設「高尾の森わくわくビレッジ」と山手センターを会場に5つのデイキャンプを追加しました。

水泳教室や語学クラスも、3密を避けるため定員を減らすなどして募集しましたが、例年以上の参加希望があり、今夏の参加者数は合計1328人と、昨年を上回る人数となりました。

また今季は、コロナ禍で経済的に困窮する家庭が増えている状況を受け、参加費補助制度「フレンドシップファンド」の利用を広く呼びかけたことも特筆すべきことでした（14面）。経済格差が社会問題となる中、家庭の事情によらずに子どもたちに体験の場を提供できるよう、今後さらに

にファンドを活用していく予定です。

宿泊キャンプは2年連続中止 日帰りプログラムは参加多数

9月に入り、冬のスキーキャンプの準備を始める時期になりましたが、感染拡大が収まらない中、果たして実施できるのかどうか。また難しい判断を迫られています。

けれども学校が一斉休校を見送ったのと同様に、YMCAもコロナ終息まですべて中止にすることを決まっています。子どもの成長の機会を確保するために、できる限りの工夫をし続けなければならぬと考えています。

2年連続でキャンプを開催できなかったこと（ウエルネス・野外事業統括 松本竹弘）

しのめYMCAこども園

夏祭りに替え「SDGsマルシェ」開催

子どもたちにも環境や貧困について関心をもってもらいたい。そんな願いをこめて7月17日、初の「みらいをまもろうSDGsチャリティーマルシェ@しのめYMCA」を開催しました。

Aこども園を開催しました。園内には「こどもコーナー」や「SDGsクイズコーナー」「牛乳パックエコオラマ展」など、楽しみながら環境や貧困を考えるブー

スを設置したほか、フードパントリーのための食品寄付や、カンボジアへの制服寄付を呼びかけるブースも用意。コロナ禍のため学年ごとに入場制限をしながらの開催でしたが、夏まつりのような賑やかな展示となりました。

赤三角

絵本「11びきのねこ」シリーズで著名な漫画家・馬場のぼるさんの展覧会が今夏、練馬区立美術館で開催されました。

馬場さんは1927年、青森県生まれ。戦争中は特攻隊員だったという不遇な時期を経て漫画と出会ひ、2001年に亡くなるまで漫画や絵本を手掛けられました。私が心打たれた作品は生前最後の絵本「ぶどう畑のアオさん」です。馬場さん自身を彷彿とさせる主人公の馬「アオさん」は、仲間の動物と一緒にぶどう畑に行くのですが、そこにはオオカミがいて邪魔をします。アオさんはオオカミを懲らしめ、皆とぶどうをお腹いっぱい食べる、という絵本らしいお話ですが、最後の一文が素敵です。「アオさんは、オオカミくんもきて、いっしょにたべればいいのになあ……とおもいました」▼敵も仲間もなく「みんな仲良し」を願う愛のメッセージです。これが馬場さんの生前最後の言葉です。ページをめくるとアオさんの優しい後ろ姿が描かれていました▼現代は分断や競争の時代。コロナ禍は人の交流をも阻害します。でもYMCAに集う子どもたちには、多くの人と出会い、「優しい心」を培ってほしいと思います。（会員部運営委員 綿引康司）

コロナ禍でも 日本に留学したい

就職へ。進学へ。——— 夢に向かう 留学生たち



今年2月のピンクシャツデーより。本来、YMCAの多彩な行事への参加と交流が、当校の特長です。

コロナ禍で留学生の入国はたびたび制限され、来日後も感染不安をかかえる日々が続いています。幾多のハードルを越え「東京YMCAにほんご学院」に入学してきた学生たちの思いと、学校の状況を尋ねました。

志ある学生たち 大切に育てたい

東京YMCAにほんご学院校長 望月 温

◆コロナで留学しづらい状況が続いています。

——昨春から緊急事態宣言のたびに日本への入国が制限され、留学生がなかなか来日できない状況が繰り返されています。制限が解除されても飛行機の予約が殺到して、昨年4月に入学予定だった留学生が来日できたのは11月。母国の大学を休学したり、仕事を辞めたりして準備して来る学生たちにとって、大きな負担となっています。

学校ではオンライン授業も用意しましたが、それでは留学の意味がないと、入学辞退した学生も少なくありませんでした。

◆今は何人くらいの学生が在籍していますか？

——東京YMCAにほんご学院は、定員156人に対して在籍者45人。全が在籍していません。国YMCAの日本語学校も、在籍率3〜6割と厳しい状況が続いています。

◆この逆境下でも留学してくる学生たちはどんな人たちなのでしょう。

——当校の学生の出身地は、ベトナム、台湾、中国、モンゴル、インドネシア、インド、スリランカなど。母国の高校や大学を卒業したばかりの学生もいれば、職歴のある社会人学生もいます。ほとんどが20代です。

彼らの多くは、日本語を学んで日本の大学や専門学校に進学し、日本あるいは母国の日系企業などに就職することを目指しています。中には国際結婚や転勤で日本で暮らすことになった人もいますが、いずれも何らかのきっかけで日本に関心をもち、日本語を使って人生を歩もうとしている若者たちです。

◆マスコミでは、バイトがでずに困窮する留学生が報道されています。

——昨年の4〜5月はアルバイトが減りました。が、今は食品工場や宅急便の仕分け、コンビニ、ファストフードなど、求人は豊富です。ただし、コロナを心配してアルバイトを控えている学生はいます。

◆授業は通常どおりに行なわれていますか？

——今も入国できない学生が4人いて、彼らは母国からオンラインで授業を受けています。来日した学生たちも希望すればオンラインで受講できますが、全員登録していません。1日2回、教室と校内の共有スペースを消毒するなど感染対策は徹底しており、これまで学内

で感染者はでていません。

夏祭りやソフトボール大会といった交流イベントはできませんが、浅草寺や江戸東京博物館などの校外学習は行っています。3密を避け、クラスごとに分かれて出かけました。

また日本人ボランティアとのオンライン交流会も実施しています。特に日本語ボランティア養成講座を修了した人たちの「おはなしクラブ」は好評だったので、継続して実施予定です。

◆今後の日本語教育の動向、展望についてお聞かせください。

——日本は諸外国に比べても入国制限が厳しく、今後も学生の減少が続くと予想されています。けれども日本語学校は、単に日本語を教えるだけでなく、日本での就労・生活・進学に必要な知識を身につけ、日本を深く理解してくれる若者を育てていく人材育成機関です。日本語学校が衰退すれば、大学や専門学校の留学生も減り、日本の外国人労働者も減っていき

ます。日本語教育は、多文化共生社会を築くためのインフラと言っても過言ではありません。YMCAは、国際教育を推進している青少年団体として、この苦境を乗り越え、志ある学生たちを大切に育てていく使命があると思っています。

（聞き手・文 広報室）

留学生インタビュー

東京YMCAにほんご学院の学生たちに、日本語を学ぶきっかけ、将来の夢、コロナが終息したらやってみたいこと、日本の生活について思うことなどを聞きました。

薬剤師になりたい



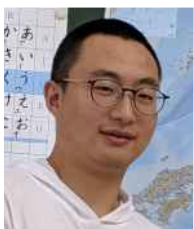
バートルズルヘ ウルギージャルガルさん
(モンゴル出身 26歳)

父が日系の会社で働いていたので、幼少時から日本に親近感がありました。父は私が9歳の時に亡くなってしまい、その後私は中国の高校に進学しましたが、日本で薬剤師になりたいと思って日本語の勉強を始め、去年10月に留学しました。

学校は楽しいです。学校にいとあつという間に時間がたちます。夏休み中はさびしかったです。千葉YMCAのグローバルキャンプに参加予定だったのですが中止になってしまいました。友だちともオンラインでしか会えません。コロナが終息したらいろんなイベントに参加したいし、もっとたくさん友だちを作りたいです。

今は公文でバイトしています。モンゴルにも公文はありますが、お金持ちしか行けません。日本の子どもたちは小さい時から勉強して偉いと思います。子どもの性格や勉強態度もモンゴルとは違います。留学するといろんな文化の違いもみえて面白いです。

日本に住みたい



ソ ユウドウさん
(中国出身 27歳)

私は以前、中国で貿易の仕事をしていましたが、北海道に1週間旅行したことがきっかけで日本に住みたいと思い、仕事を辞めて日本語の勉強を始めました。それまで日本の歴史も文化も勉強したことがなかったですが、日本の生活がとても好きです。日本語学校を卒業したら、また貿易の仕事をしながらか日本に住みたいです。

この学校を選んだのは、上海YMCAの知人に勧められたからです。来日したばかりの頃は、日本語が分からずいろいろと困ることもありました。電車に乗ろうと思ってもSuicaの買い方が分からなかったり、レジで「袋はご入り用ですか？」などたくさん質問されても理解できなかったり。今はだいぶ慣れました。学校の先生たちもよく相談ののってくれるので、落ち着いて暮らせています。コロナが収まったらもっとたくさんの人と話をし友だちを作りたいです。そしてまた北海道に旅行がしたいです。

衣料品のお店を開きたい



チャン ティ ハンさん
(ベトナム出身 24歳)

日本に留学した友だちの話をきいて、私も留学したいと思いました。コロナは心配でしたが、両親も親戚も日本をとていい国だと思っていたし、ベトナムでの就職にも有利なので決めました。YMCAの学校を選んだのは、ベトナムの日本語学校の先生が勧めたからです。他の学校と違っていろいろな国籍の学生がいるので楽しいです。私のクラスにはモンゴルやインド、中国などの学生がいて、日本語や英語で会話したり、他の言葉も教えてもらったりして、世界が広がります。

この学校を卒業したら、専門学校に進学してビジネスの勉強をして、将来はベトナムで服やバッグを売るお店を開くのが夢です。ベトナムの家族はコロナを心配して、毎日「マスクしなさい。人混みに行ってはいけない」と電話してきますが、私は毎日楽しく登校しています。

自動車の勉強がしたい



ド ディ ロンさん
(ベトナム出身 20歳)

子どもの頃、「ドラえもん」を見て日本語に興味をもちました。ベトナム人にとって日本語の発音はとてもかわいくて面白いです。高校を卒業してすぐに日本語の勉強を始め、昨年4月にYMCAに入学しようとしたことがコロナで入国制限になり、来日できたのは11月。それまで7か月間、家で日本語を勉強して待ちました。家族は心配しましたが、私は日本語を勉強して、日本の専門学校か大学に進学して、自動車の勉強をしたいです。日本で3年間くらい働いて経験を積んで、ベトナムで日系企業に就職したいと思っています。

日本に来て驚いたのはコンビニ。家賃やケータイの料金まで支払えるのにはびっくりしました。今のアルバイトは「すき家」。日本人と話すチャンスがほしいと思ったので、接客をしています。コロナが終わったら、日本のお祭りを見たいです。

総主事カフェ

東京YMCA総主事
菅谷 淳



↑2018年度チャリティーラン

総主事カフェようこそ

長引くコロナ禍で予定していた事業や活動は中止または延期、変更を余儀なくされています。その中で会員、スタッフは知恵を絞りテクノロジーを駆使してなんとかこの困難を乗り越えよう、計画を実行しようと努力しています。中には「この機会にコロナ前より良いものにできないか」という視点も持ちながら工夫を凝らした活動もあります。

東京YMCAは毎年秋に都立木場公園でチャリティーランを開催しています。障がいのある子どもたちを励まそうと、6人が一つのチームとなって駅伝方式で走り、その参加費や企業・団体の協賛金がYMCAの障がい児・者プログラムに使われるというチャリティーイベントです。ところが昨年は大勢が一カ所に集合するのはNGということで中止になりそうでした。しかしながら障がいのある子どもたちの多くは家から出られない状況にあり、想像以上のストレスを抱えています。このような時だからこそYMCAとしては、なんとかこれを実施できないか、できるできないの二者択一ではなく、感染の不安のないチャリティーランはどうしたらできるかなど、実行委員を中心に知恵を絞って、全く新しい方式によるチャリティーランを実施しました。

一カ所に集まらない、しかしみんながつながるチャリティーラン、それはスマートフォンの歩数計アプリを使った「チャリティーウォーク」でした。参加者は大会期間中であればいつでも、どこでも、誰とでも自由に歩くことができます。その歩数はリアルタイムで集計され、全員の歩数を見ることができます。大会は歩数の多い順に入賞となりますが、最高齢参加賞など楽しい企画もありました。子どもからお年寄りまで健康に留意し、自分のペースで楽しく歩きました。1,213人もの人が参加し、総歩数はなんと8,900万歩。1歩を70cmとすると、62,700kmも歩いたことになります。これは実に地球を1.5周した計算です。一人ひとりの歩数は小さくても1,213人集まればこんなに大きいことを成し遂げることができる、それは嬉しい新発見でした。同時に障がいのある子どもたちへの支援も、一人ひとりの力は小さくても、賛同者、協力者がたくさん集まれば、大きな支援となる、という確信にもつながりました。

「夫婦で参加したことで前より夫婦仲が良くなりました」という方もいらっしゃいました(残念ながら我が家ではありません)。今年もまた10月に同様の方法で開催します(=4面)。皆さんも是非ご参加ください。心よりお待ちしております。

【特集】東京YMCAにほんご学院の今

MB A取得を目指して

セキ ショハツさん

(中国出身 24歳)



小学生の時、テレビで「NARUTO」を見て、日本アニメのファンになりました。「ワンピース」や「ジョジョの奇妙な冒険」も大好きです。1日10時間くらい見ていた日もありました。アニメで日本語を覚えて、文化や歴史も勉強して、中国の大学でもアニメの研究をしました。でもアニメを仕事にするのは難しいので、日本の大学ではMBAを取得したいと思っています。

去年の4月に入学しようとしたのですが、来日できたのは11月。大学卒業後だったので、アルバイトをして待っていました。コロナが心配なので、日本ではアルバイトはしていません。家族も心配してよく連絡してきます。あまり外出できませんが、ディズニーランドは楽しかったです。まだ日本語が上手ではないので、クラスの友だちとも少ししか話せませんが、YMCAの先生方は親切なので、生活には困っていません。コロナが終わったら、富士山に登ってみたいです。

営業の仕事がしてみたい

ブ ティ リンさん

(ベトナム出身 20歳)



私はもともとベトナムの大学に進学するつもりだったのですが、近所の人から日本の話を聞いて興味をもちました。このまま親元にて大学に行くよりも、日本で勉強して働いてみた方が成長できると思って、留学を決めました。家族はコロナを心配してベトナムで勉強しなさいと言いましたが、私は広い世界に出てみたいと思ったので、来日しました。

来日したばかりの頃は日本語ができず、日本人と会うと恥ずかしくて話もできなくて、一人で暮らすのは大変でした。今はだいぶ慣れてきました。食品工場でのアルバイトも順調です。日本で暮らして発見したことはたくさんありますが、ゴミの分別には驚きました。ベトナムにはない習慣ですが良いことだと思います。

日本語の文法は難しいですが、漢字は面白いです。特に「家」という漢字は意味も形も面白くて大好きです。週末はいつも漢字練習をしています。卒業後はビジネスの専門学校に進学して営業の仕事をしてみたいです。それから、せっかく20歳になったので、コロナが終わったら友だちと一緒に居酒屋に行ってみたいです。

アニメのデザインをしてみたい

レ ズイ ハウさん

(ベトナム出身 20歳)



子どもの頃から日本のアニメを見ていました。特に「名探偵コナン」が好きです。将来はアニメ関係の仕事がしたいと思って、高校卒業後に日本語の勉強を始めました。本当は今年の4月に来日予定だったのですが、急にビザが下りたので、予定よりも3カ月も早く、12月28日に来日しました。旅行代理店から「明日の飛行機の予約がとれた」と連絡があり、これを逃すと次はいつになるかわからないと思ったので、1日で荷造りして来日。年末年始は2週間、ホテルで隔離生活をしていました。日本に来て驚いたのは車が左側通行なこと。びっくりしてインターネットで交通ルールを勉強しました。

にほんご学院を卒業したらデザインの専門学校に進学して、アニメのフィギュアなどを作る仕事がしたいです。日本で5年くらい働いたらベトナムに帰国して働きます。日本は長時間労働なので、ずっと働くのは難しいと思うからです。

コロナが終わったら、大阪や沖縄を旅行したいです。

「中学・高校生たちが、自らの意思で自分以外の人のため、社会のためにつくし



東京海洋大学深川越中島キャンパス構内に建つ「精神不滅の碑」
(東京海洋大学所蔵)

シリーズ
資料室の窓から(112)
奥多摩キャラバン隊・
こころの奥の記念碑

本会元副総主事 齊藤 實

若さを燃やす経験をYMCAでは是非させたい。1975年8月、水泳指導を中心とする「奥多摩キャラバン隊」を実現させた主事本間立夫は、こう願いつづけた。ここでは願いつづけた中高生22名がアシスタントリーダーとして加わった。彼らの心は、はじめは戸惑いで揺れた。しかし、奥多摩日原地区と古里地区の小学生に水泳を教えゲームを楽しんだ6日間に変化が起きた。はつきりとは説明できないまま、心の中に、小さな記念碑の置き場が整えられたと思われる。中高生であった兄弟二人を参加させた父親は言う。「はじめは厭な顔をした二人」が無事終了して帰宅すると「面白かった。又来年も行くからね」。私は一瞬カバンとしてしまった」と。アシスタントリーダーを務めた女子高校一年生は言う。「サヨナラの時にこぼした涙は、忘れられないでしょう。何年かたってふり返ってみても」と。既に高齢者の仲間であるかもしれない彼女が、今どのような生涯を営んでいるかはわからない。でも、時には、奥多摩の木立が揺れる音や、心の奥の記念碑を回って遊ぶ子どもたちの声が聞こえてくるに違いない。人は誰でも、心の中に記念碑を持つているのだ。記念碑的記憶を心の中で愛しむものである。ところで、話は我がことに及ぶのだが、私は一度海で溺れた。1944年8月2日、清水高等商船学校第2期生徒として初めて迎え

た「折戸湾5湍編隊遠泳」であった。数日続いていた豪雨の影響か湾内に荒浪が立っていた。泳ぎ未熟の赤帽組の私はどれほどの時と距離を泳いだのか。直面する事態から逃げずに力の限りを尽くしたが、意識を無くした。息を吹き返したのは船の上であった。戻った棧橋では同期生3人が毛布にくるまれて動かなくなっていた。今は母校となった東京海洋大学深川越中島キャンパス構内に建つ「精神不滅の碑」は、亡くなったその同期生3人の名を刻んで「清水精神の権化」と顕彰している。私の名が刻まれたかもしれないなかった碑を前に、私の心の奥の記念碑は、YMCAを生きている日々の感謝に輝いている。